

Si-R G121 V20.15 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	端末可視化	端末可視化機能で使用するベンダ名を解析するためのOUI辞書ファイルと、ホスト名/機種名を解析するためのMACアドレス辞書ファイルを更新する。 本対応により、以下の効果がある。 ・解析できるベンダ名が増加する ・富士通製ネットワーク機器の解析できる機種名が最新化される
2	内蔵通信モジュール状態取得コマンドのサポート	内蔵通信モジュールの受信電波レベルを表示するコマンド(show wlan status)を実装する。
3	装置内遅延改善	装置内遅延を改善する。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V20.06～V20.14	内蔵モジュールのbind先のLANにDHCPでIPアドレスが配布されなくなった。(down code [d4000001:00000000]発生)
2	V20.06～V20.14	ether 1 xポートで64bit長のMIBが採取できるようにする。
3	V20.06～V20.14	NXconciierge運用中、時間経過に伴いPACファイル取得の応答が遅延する場合がある。
4	V20.06～V20.14	NXConciierge設定有効時、装置再起動が実行されるまで時間がかかる。
5	V20.06～V20.14	大量のMAC消去中に、vlan forward設定で静的MACアドレス登録を実行すると、装置がエラーコード0xd4000001で再起動することがある。
6	V20.06～V20.14	VRRP仮想IPを利用したetherIP構成時に、装置無応答となることがある。
7	V20.06～V20.14	getendpointlistとコマンドを打ち込んでも装置内のエンドポイントリスト情報が更新されないことがある。
8	V20.06～V20.14	sflow service enableコマンドにてsflow機能を有効に動的定義変更しても、トラフィック可視化が動作しないことがある。
9	V20.06～V20.14	管理ポータルへの論理インタフェース統計情報を通知出来ない場合がある。
10	V20.06～V20.14	NXConciierge運用中に、エージェントモードをoff設定に変更すると、装置内処理負荷が一時的に増加することがある。
11	V20.06～V20.14	clear bridgeコマンドを実行しても動的学習エントリが消去されない場合がある。
12	V20.06～V20.14	IPsec経由のリモートデスクトップ接続時、以降IPsec通信不可となることがある。
13	V20.06～V20.14	対向装置との間で接続先監視(idleonly設定)時に、監視異常を検出しなかったことがある。
14	V20.06～V20.14	静的NAT機能を使用するとき、ftp通信開始後に無通信状態が継続すると、以降のftp通信に失敗することがある。
15	V20.06～V20.14	show csg lsitコマンドの表示が文字化けすることがある。
16	V20.06～V20.14	CNAMEを含むDNS応答を受信した場合、ブレイクアウトが正しく行われない場合がある。
17	V20.06～V20.14	装置reset後にcoreファイル(pcdmcd.xxx.core.gz)が生成されることがある。
18	V20.06～V20.14	故障等による装置再起動が繰り返し発生後にソフトウェア更新ができなくなることがある。